

## 2016春季生活闘争

### ～ 3. 8 国際女性デー全国統一行動北海道集会～

連合北海道は、3月5日（土）札幌市内において、「～2016春季生活闘争～3.8国際女性デー全国統一行動北海道集会」を開催し、北海道各地から10産別4地区連合より学生2名を含む154名が参加しました。

来賓を代表し、徳永エリ参議院議員から連帯の挨拶をいただき、畠山みのり道議会議員、三宅由美市議会議員、村上裕子市議会議員にもお越しいただきました。

3.8国際女性デーは、1857年にニューヨークで起きた工場火災で多くの女性たちが亡くなったことを受け、3月8日に低賃金・長時間労働に抗議する集会が開かれたことが起源です。その後、国連においてこの日は「女性の権利と平等のために闘う記念日」と位置づけられ、賃金・労働条件の向上を表す「パン」と、女性の尊厳、人権の確保を示す「バラ」をシンボルに、今も世界各国で様々な行動が展開されています。

連合でも、1996年から春季生活闘争の中に国際女性デーの行動を位置づけ、全国で行動を展開しているところで、その一環としての北海道集会となります。

冒頭主催者を代表して、連合北海道女性委員会山田悦子委員長は、今まさに春闘の真只中、来場者からの多くの組合員に方々へ春闘課題・女性活躍推進法を取り巻く課題について情報の共有をお願いし、先般開催された連合北海道総「就活応援セミナー第8弾」で的一端に触れ、「奨学金の返済が足かせとなり、若者が働き方を選択できる環境が狭まるのではないか」「女性の働く環境に求めること」等北海道における労働課題改善のために、男女を問わず制度の充実・浸透、働く環境の整備の必要性を訴えた。



基調講演では、北見消費者協会会長の響田恵美氏を招き「自分らしい生き方を求めて」と題し、ご自分が今までの生きてきた姿をお話ししていただくとともに、わたくし達に、「自分らしい生き方」を選択していくために背中を押していただきました。

産別報告として医療現場の渡島地域ユニオン高橋病院労働組合の有田美佳委員長より、労働組合結成時期の経緯と非正規社員の組織化の推進・処遇改善の取り組みについて、介護現場のU Aゼンセン日本介護クラフトユニオン北海道総支部の林おりえ運営委員長より、介護現場で働く人の現状として、働く人のライフスタイルと仕事の関係が大きく影響しあい、非正規社員から正社員の選択もそこに拘る女性がいること、また介護の業界には、女性特有の「しなやかな強さ」が必要で管理者にも女性が多い現状がある。介護は日本の未来を支える重要な仕事であるとやりがいを持って働く女性たちへ励ましを送りました。最後に教育現場の北教組の佐々木清美常任委員より、養護学校で働く人の勤務実態について、複雑な状況を抱える生徒の対応や、卒業生の職場訪問なども次の就職につなげるために少なくない、軽度の知的障害の卒業生が裏の社会の中で利用されてしまうことに胸を痛めていることなど多方面にわたる仕事の内容とその対応の現状を話していただきました。各職場の現状や課題を率直にお話しただけに感謝し今後の取り組みの参考にしていきます。

最後に齊藤勉副事務局長より、総括として本日聞かせていただいた、さまざまな課題の改善には、政治と切り離しては推進できないとわたくし達にとって政治の必要性を訴えて集会は終了しました。今後も連合北海道は、積極的に女性の活躍できるようにさまざまな取り組みを推進していきます。以 上

